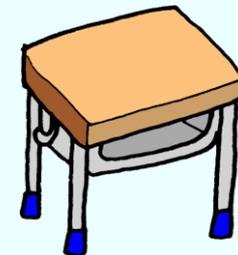




水橋地域



市立小・中学校の
将来のあり方について

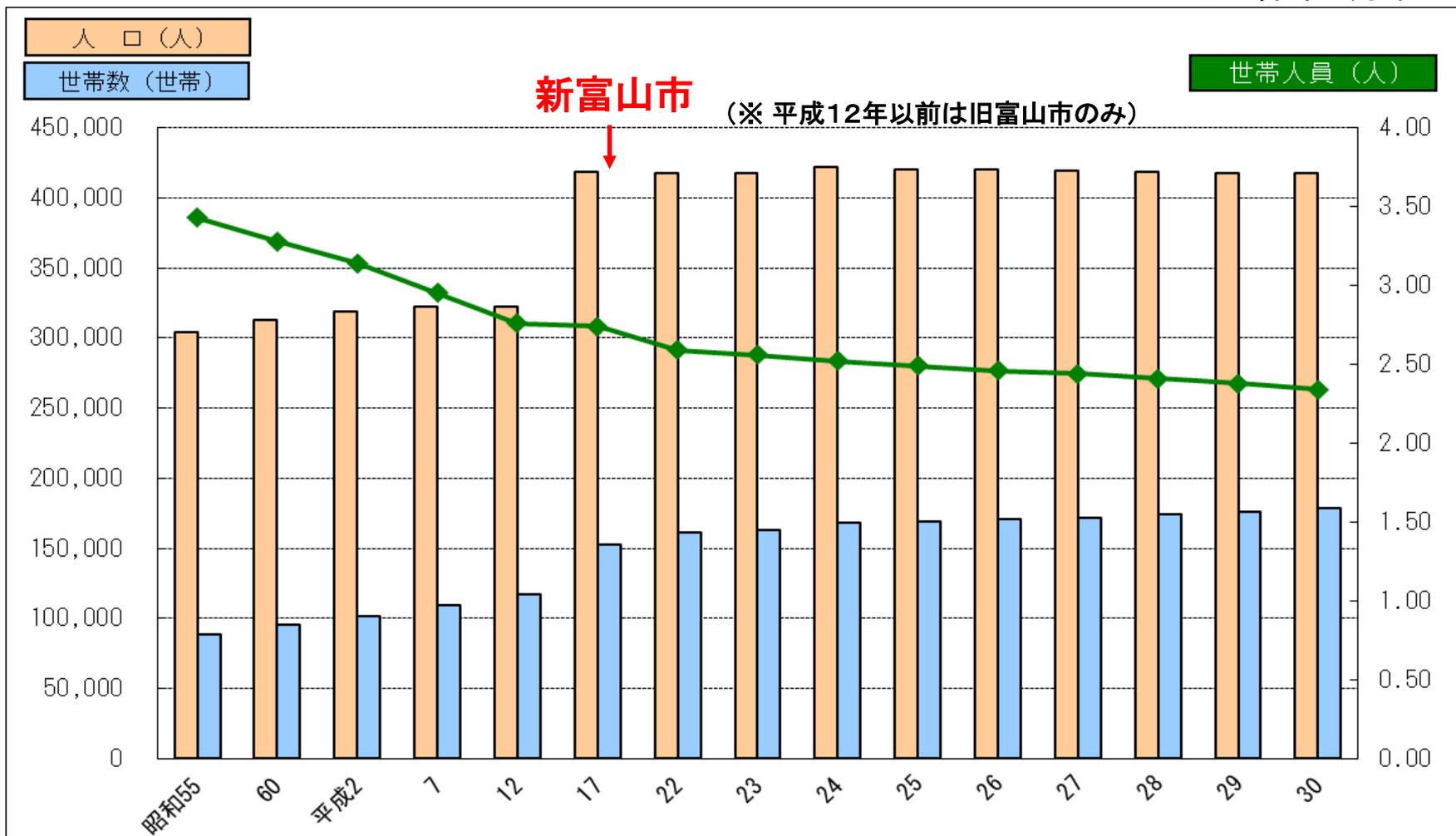


富山市教育委員会

1 富山市全体の状況

(1) 人口の推移

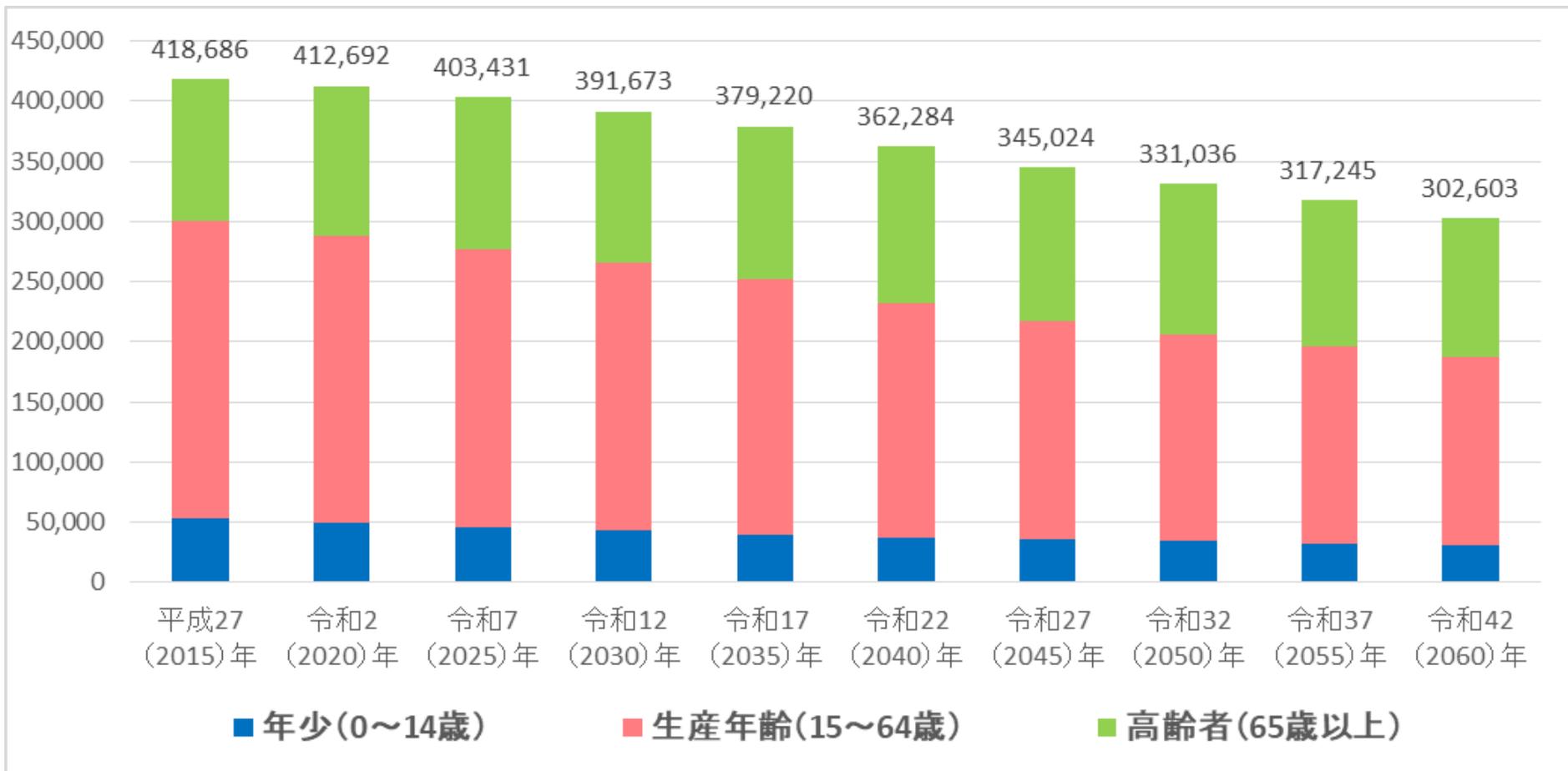
※ 各年9月末



1 富山市全体の状況

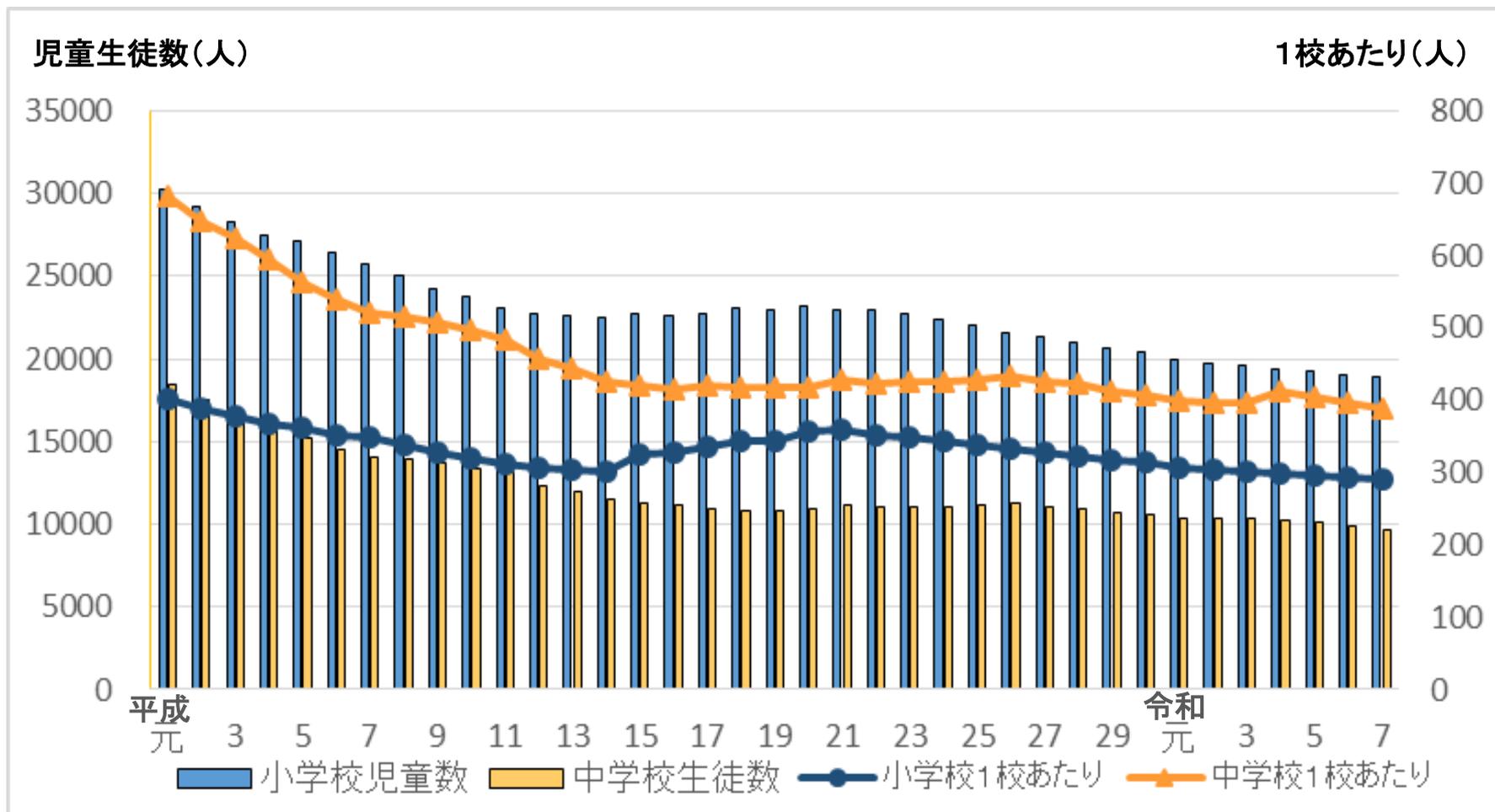
(1) 人口の推移

人口(人)



1 富山市全体の状況

(2) 市立小・中学校の児童生徒数の推移



1 富山市全体の状況

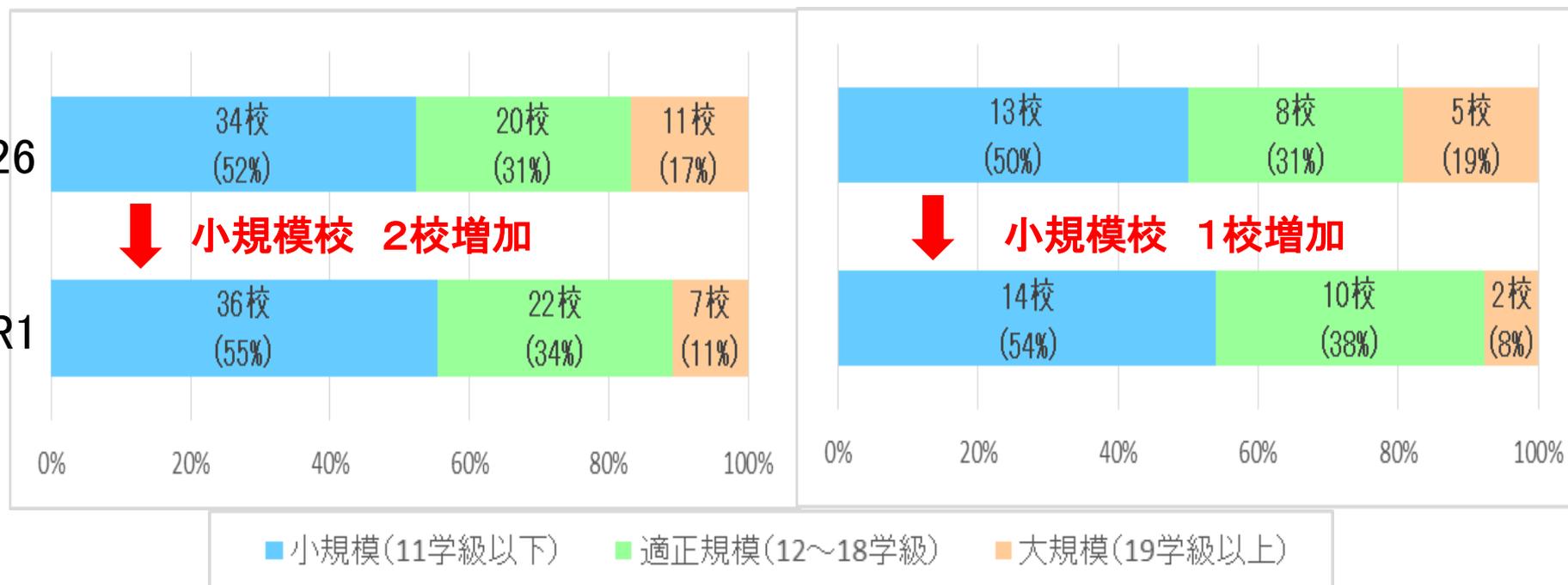
(3) 市立小・中学校の学校規模

標準（適正規模）：1校あたり12～18学級

(※学校教育法施行規則)

小学校

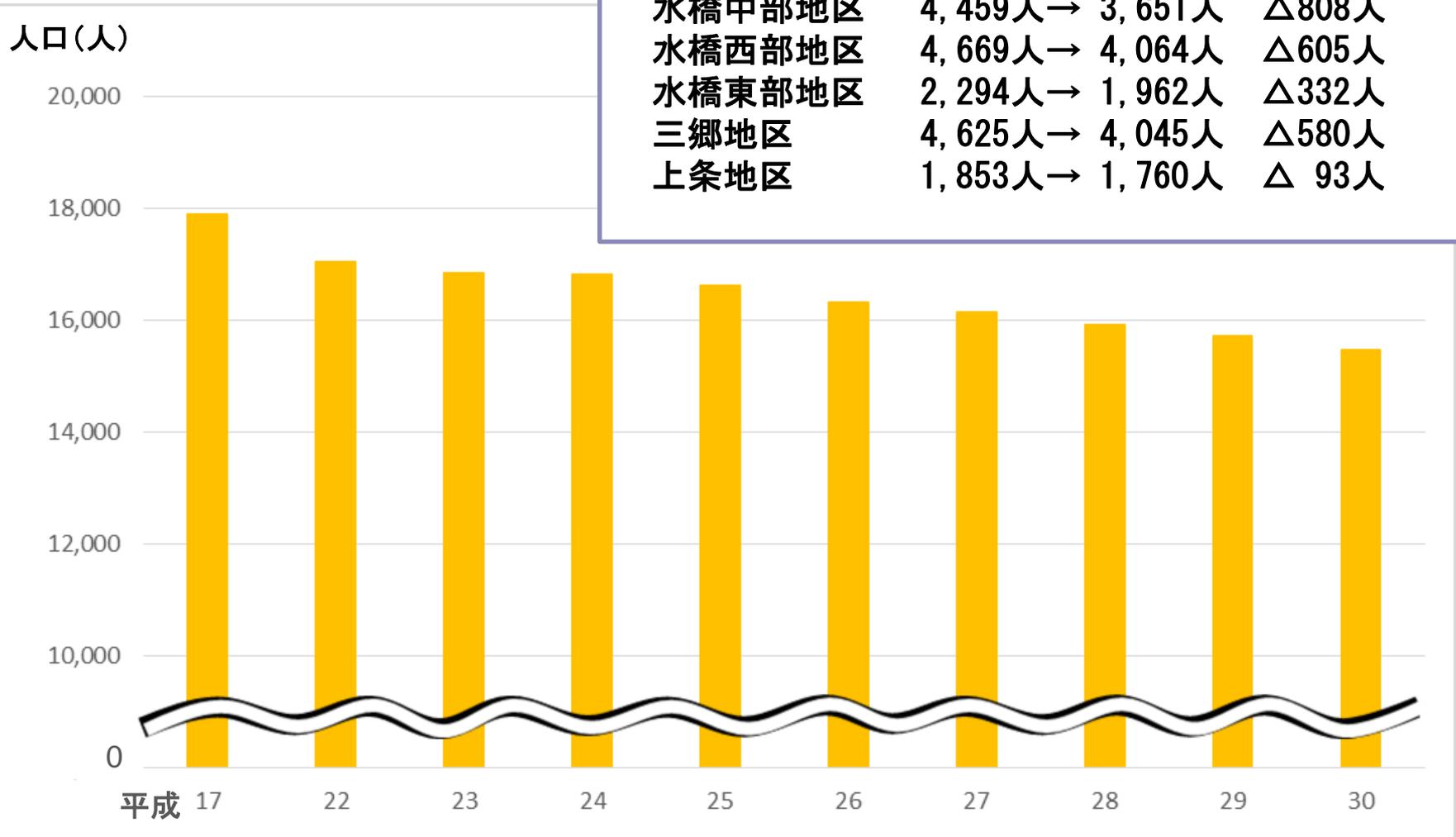
中学校



市立小・中学校の5割以上が小規模校

2水橋地域の状況

(1)人口の推移

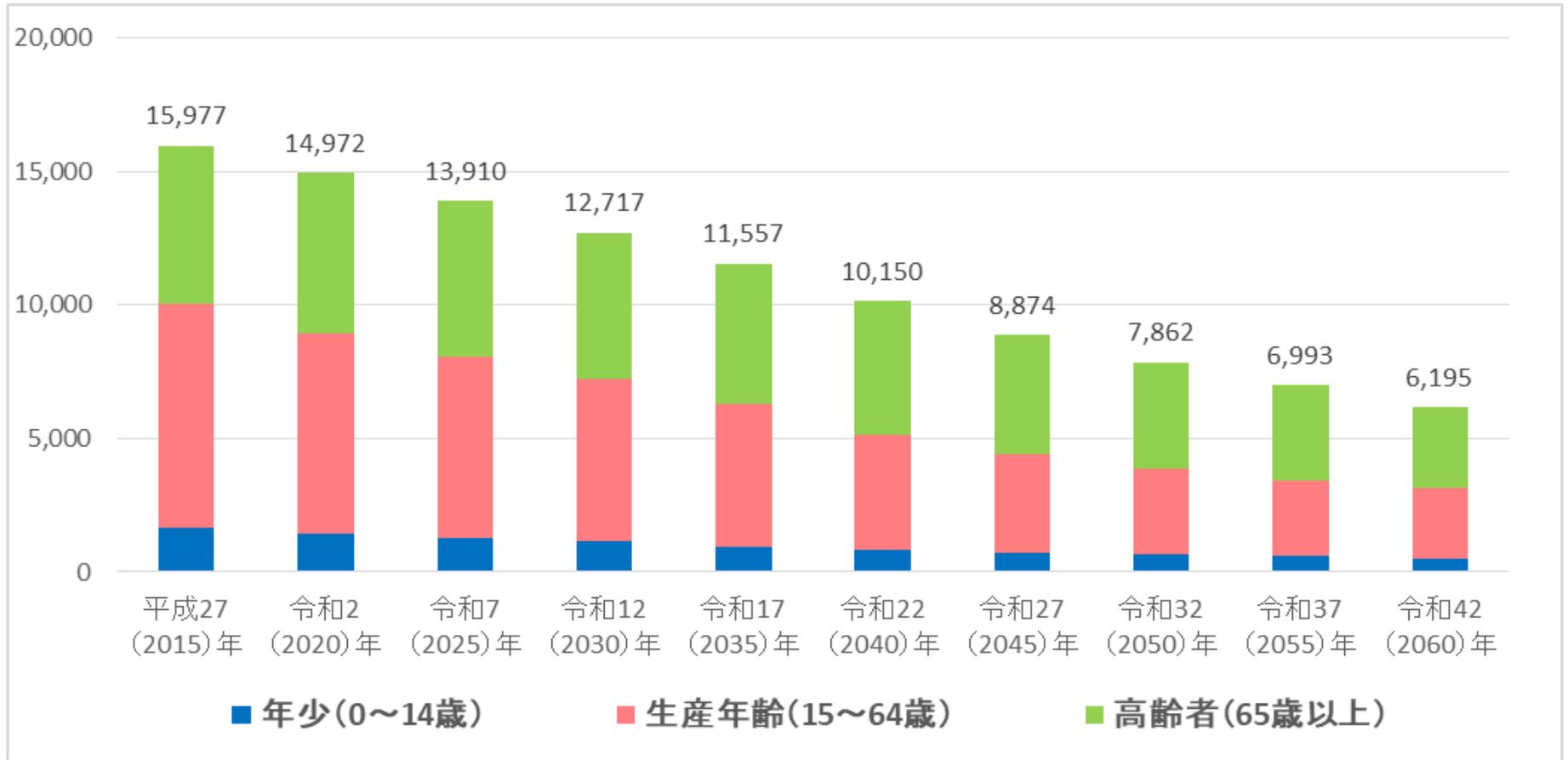


【内訳】	H17	H30	△
水橋中部地区	4,459人	3,651人	△808人
水橋西部地区	4,669人	4,064人	△605人
水橋東部地区	2,294人	1,962人	△332人
三郷地区	4,625人	4,045人	△580人
上条地区	1,853人	1,760人	△93人

2水橋地域の状況

(1) 人口の推移

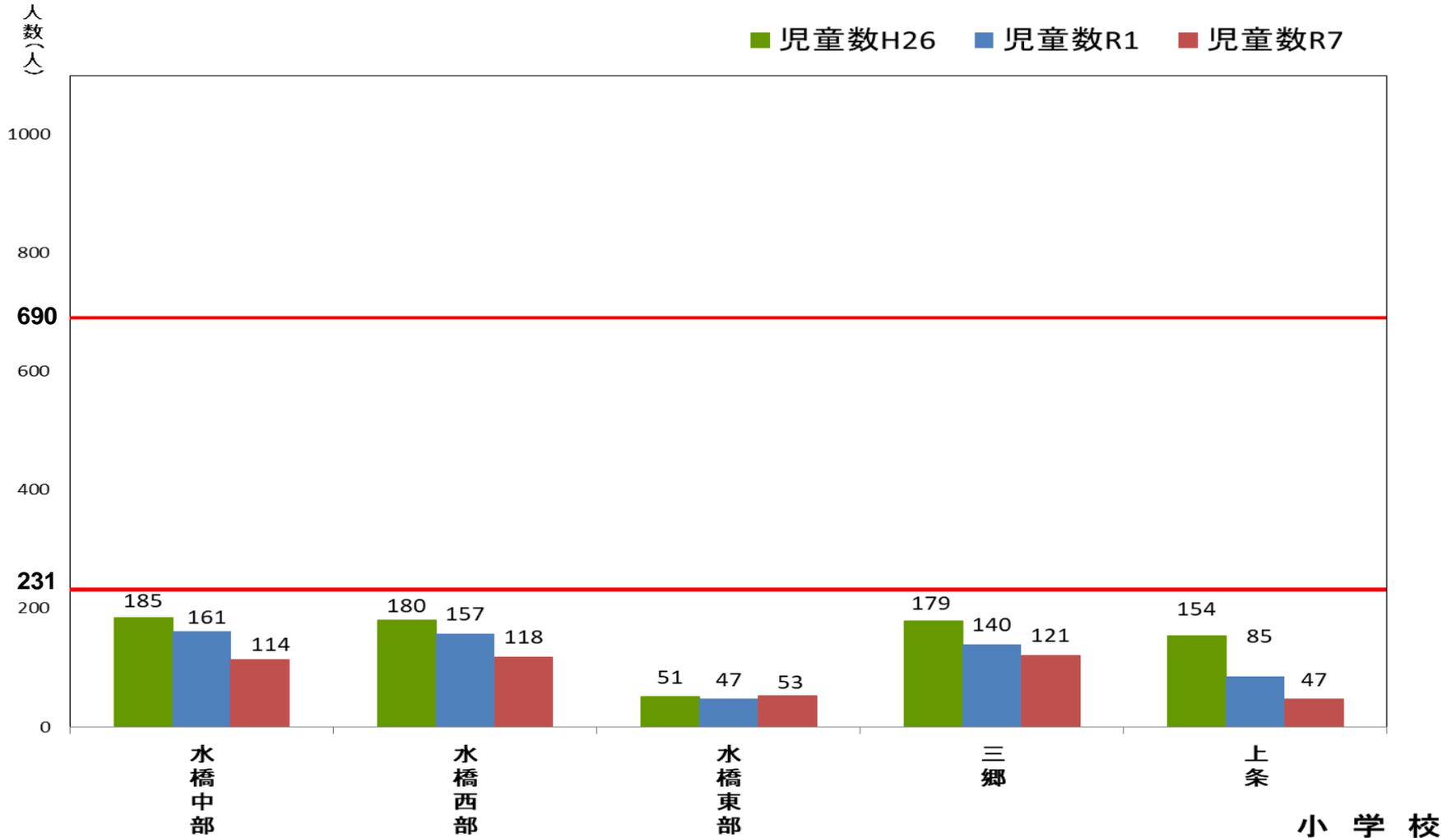
人口(人)



※「富山市公共施設マネジメント アクションプラン戦略編」の人口推計を基に作成

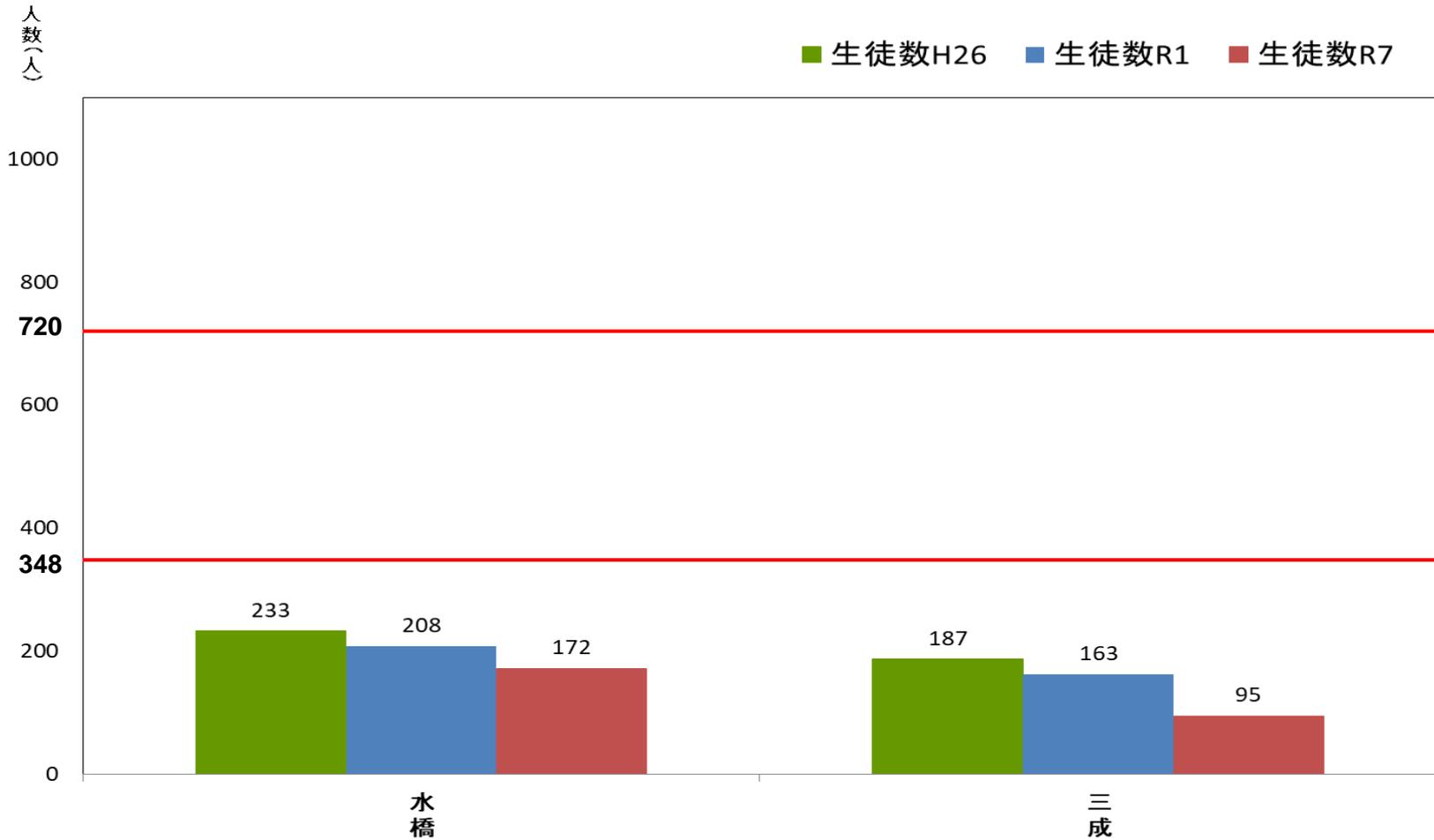
2 水橋地域の状況

(2) 児童生徒数の推移(見込み)



2 水橋地域の状況

(2) 児童生徒数の推移(見込み)



2 水橋地域の状況

(3) 学校規模の推移(見込み)

児童数(人)

 複式学級

小学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
水橋中部小	H 2 6	7	30	24	21	31	32	47	185
	R 1	6	24	31	22	30	24	30	161
	R 7	6	15	15	24	16	18	26	114
水橋西部小	H 2 6	6	26	34	26	29	30	35	180
	R 1	6	24	24	30	23	31	25	157
	R 7	6	17	18	22	23	19	19	118
水橋東部小	H 2 6	6	4	10	10	8	9	10	51
	R 1	5		10	8	13	11	5	47
	R 7	5	8	4	7	16	4	14	53
三郷小	H 2 6	6	29	21	39	29	29	32	179
	R 1	6	17	23	26	18	28	28	140
	R 7	6	18	25	14	20	25	19	121
上条小	H 2 6	6	13	22	27	33	37	22	154
	R 1	6	8	11	8	21	22	15	85
	R 7	5	4	9	9	10	7	8	47

 大規模 (19学級以上)

 適正規模 (12~18学級)

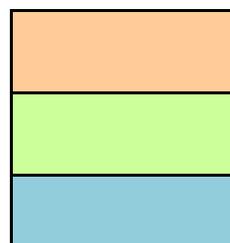
 小規模 (11学級以下)

2 水橋地域の状況

(3) 学校規模の推移(見込み)

生徒数(人)

中学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	合計
水橋中	H 2 6	7	72	87	74	233
	R 1	6	70	69	69	208
	R 7	6	48	64	60	172
三成中	H 2 6	6	72	57	58	187
	R 1	6	45	59	59	163
	R 7	3	26	35	34	95



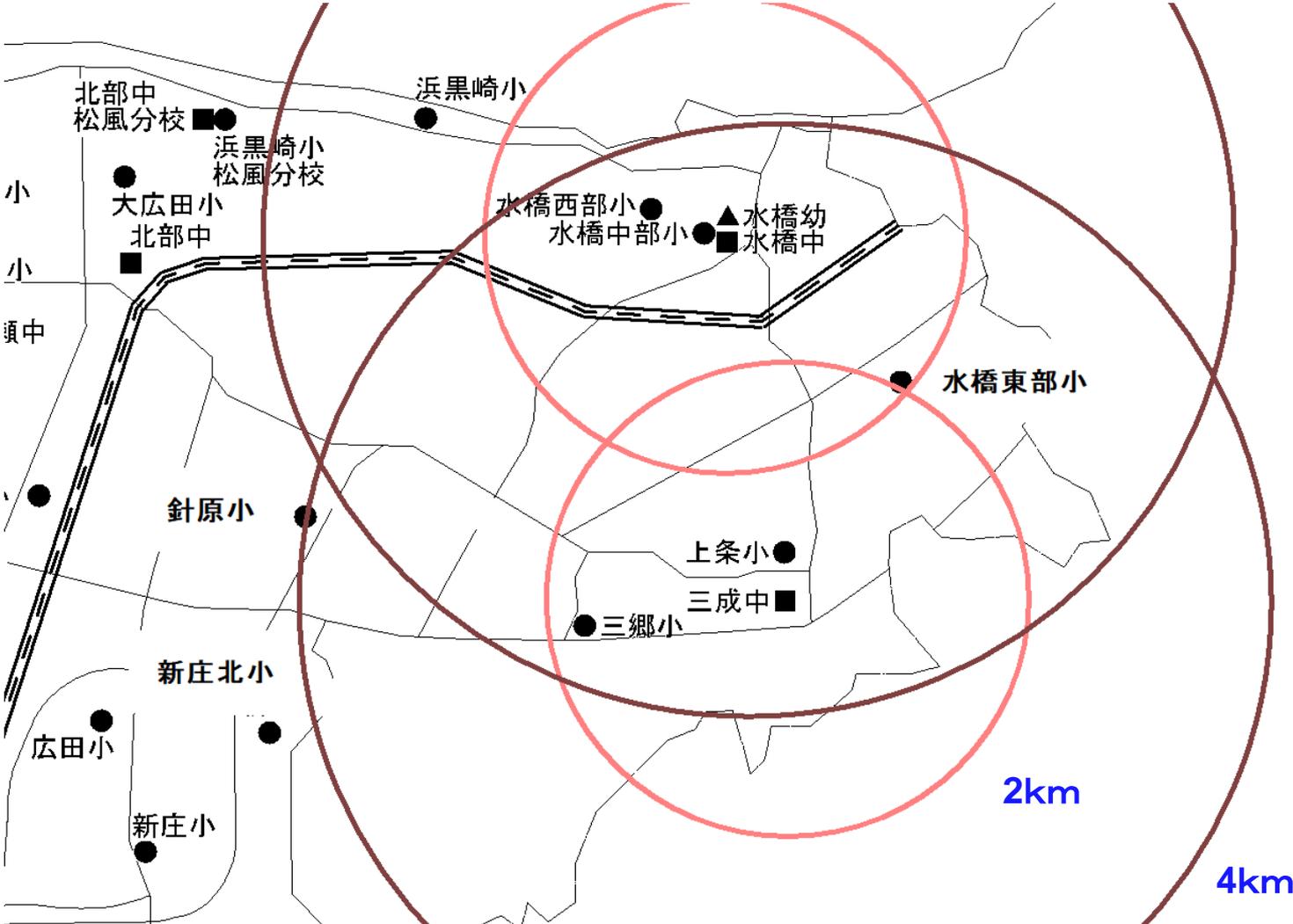
大規模 (19学級以上)

適正規模 (12~18学級)

小規模 (11学級以下)

2 水橋地域の状況

(4) 学校の位置



2水橋地域の状況

(5) 学校の沿革(建物状況)

水橋中部小 H23 校舎改築竣工

水橋西部小 H30~R1 耐震補強工事

水橋東部小 H30~R1 耐震補強工事

三郷小
H26 校舎改築竣工
H28 プール新築竣工

上条小
H19 校舎増築竣工
R1~3 校舎改築工事

2 水橋地域の状況

(5) 学校の沿革(建物状況)

水橋中学校

H9 校舎大規模改造竣工

三成中学校

S62 校舎改築竣工

3 小規模校における教育

(1) 小規模校のよさ

- 一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな指導ができる。
- 学校行事で子どもたちの活躍の場が多い。
- 他学年や地域の方と交流活動がしやすく、親交を深められる

3 小規模校における教育

(2) 小規模校の課題

小・中学校共通

- クラス替えがないため、多様な考えに触れる機会や、社会性や規範意識を身につける機会が得られにくい。
- 体育のバスケットボール等の団体競技や音楽の合唱等が行いにくい。
- 経験年数、専門性、男女比など、教員をバランスよく配置できない。

3 小規模校における教育

(2) 小規模校の課題

小学校

- 複式学級となる場合には、教員が複数学年分の指導準備を行うこととなり、各学年へのきめ細かい指導が行いにくい。
- 教務主任が学級担任を兼務するなど、一人の教員にかかる負担が大きくなる。

中学校

- 9教科10科目すべての教員がそろわず、一部の教員が専門以外の教科の授業を行わなくてはならない。

※ 教科担当教員の配置 1校3学級→6人

⇒ 9教科10科目の対応が難しい

- 開設できる部活動の数に制約が生じる。

4 適正規模、適正配置に向けた取り組み

(1) 小規模校

- ① 学校の統合
- ② 学校選択制の導入
- ③ 小規模特認校制
- ④ 通学区域の見直し

(2) 大規模校

- ① 学校の分離
- ② 施設の増築
- ③ 通学区域の見直し

5 学校規模に起因する デメリット緩和に向けた手段

(1) 小規模校

- ① 教員の加配置や複数校兼務
- ② 小中一貫教育、義務教育学校
- ③ ICT機器の活用

(2) 大規模校

- ① 教員の加配置

おわりに



児童生徒数の減少に伴い、学校の統廃合は将来的に避けて通れない大きな課題です。

学校の標準規模化を図るなど、次代を担う子どもたちにとって、地域・保護者・教育委員会が一体となって、よりよい教育環境となるよう考えていく必要があります。

